

# 施工 資源循環及び廃棄物削減の取り組み

## 建設廃棄物の適正処理及びリサイクル状況

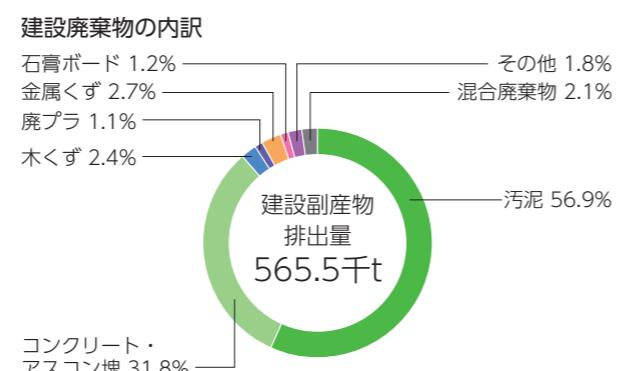
### 建設廃棄物の処理状況

2018年度の建設廃棄物の排出量は、新築工事431.1千t (76.2%)、解体工事134.4千t (23.8%)、合計565.5千tでした。2017年度と比較して27.2千t (5.1%)増加しました。



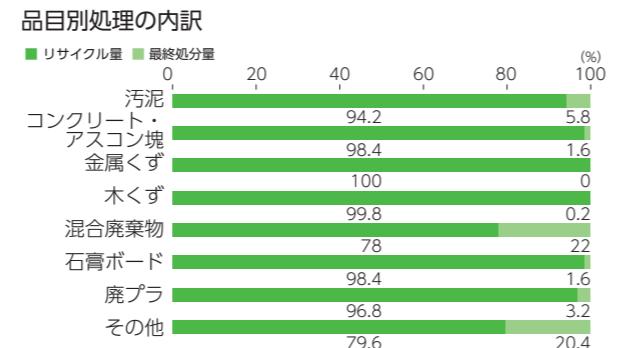
\*原単位量は、新築工事対象。

\*原単位量は、再資源化処理施設(木くず、廃プラ)分を除いており、混合廃棄物のみ集計しています。



### 建設廃棄物のリサイクル状況

2018年度の建設廃棄物のリサイクル量は、新築工事406.2千t (75.4%)、解体工事132.6千t (24.6%)、合計538.8千t (95.3%)でした。解体工事では、冷媒フロン2t及びハロン0.3tの回収・破壊処理、アスベスト65.1tを適正に処理・処分しました。



## 廃棄物削減の取り組み

### メーカーリサイクルの活用推進

メーカーリサイクル(広域認定制度)は、製品の製造メーカー等が環境大臣の認定を受けて、廃棄物(製品端材など)となった自社の製品を回収し、リサイクルする制度のことです、確実なリサイクルが可能です。

長谷工では、たとえば石膏ボードを現場から回収し、他のメーカーの工場で石膏粉と紙に分離、石膏粉は石膏ボード原料、紙は製紙原料にリサイクルすることを行っています。

なお2018年度は、6,331tの廃石膏ボードのリサイクルを行いました。



### 省梱包・通い箱によるダンボール梱包材の削減

建設作業所では、メーカーとタイアップし、給湯器のリターナブル省梱包や各住戸の分電盤、専用部のダウンライト器具の作業所搬入時に通い箱を使用し、ダンボール梱包材の削減を行っています。



削減を行っています。また、ダウンライト器具については、工場で電球をセットした状態で作業所へ納入を行い、更なる梱包用ダンボールの削減を推進しています。



ダウンライト器具に電球をセットし作業所へ納入

### 熱帯雨林材の削減

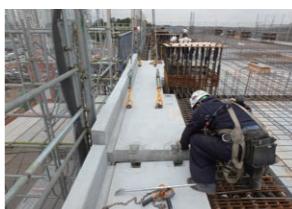
コンクリート型枠用合板は、熱帯雨林材から製造されています。広大な熱帯林を失うことは、大量のCO<sub>2</sub>の吸収源を失うことになり、また生物多様性の観点からも、その保全が急務となっています。

建設部門では、廊下やバルコニーの手摺や鼻先、飾り柱、外部階段、床板にプレキャストコンクリート部材の使用を推進、また非耐力壁にはALC工法を採用しています。その他、使用可能な場合は鋼製型枠や樹脂型枠も採用するなど熱帯雨林材からなる型枠用合板の削減を行っています。

2018年度の熱帯雨林材削減実績は、東京地区281,035m<sup>3</sup>、削減率15%、関西地区361,870m<sup>3</sup>、削減率33%を達成

しました。

また、木製型枠に替えて工業製品や代替型枠を使用することにより、加工時の端材の発生や生コン車両台数も削減され、作業廃棄物、CO<sub>2</sub>の発生抑制につながっています。



バルコニーPCaスラブ

非耐力壁ALC

### 施工部門における教育の取り組み

#### 新入社員教育

技術系新入社員の配属前研修として、建設作業所から発生する産業廃棄物の分別研修と産業廃棄物中間処理施設の見学を行いました。

建設作業所では、廃棄物の発生状況と分別管理の実務講習を行い、また中間処理施設では廃棄物の処理工程を見学し、資源の大切さとリサイクルの重要性を学びました。



現場での分別実習

中間処理施設の見学

#### 建設作業所の職方への教育

建設作業所から排出される廃棄物の分別とリサイクルを推進するため、協力会社の職方を対象とした分別教育を随時行っています。朝礼や一斎清掃時に、実際に排出された廃棄物を選別したり、また、長谷工オリジナルの分別リサイクル教材による講習会を実施する等、廃棄物の分別とリサイクル向上のための教育にも力を入れています。



朝礼時の分別教育

一斎清掃時の廃棄物選別